

＼クリスマス特需／ ケーキ用業務イチゴ最盛期 西尾のイチゴ出荷が冬の繁忙期を迎えます

規模・生産量ともに県内トップクラスを誇るJA西三河いちご部会(大竹一哲部会長)はクリスマスを間近に控えた12月上中旬、イチゴ生産の冬の山場を迎えます。

最盛期には1日に22,000パックを出荷予定。クリスマスケーキ用の需要の高まりに合わせて、12月10日頃より業務用イチゴの出荷を開始。業務用の階級はケーキに適した2L・L・Mの3種類で、通常のレギュラーパックに比べて7分着色と青めに収穫しています。

★**特に需要の高い11日から21日までの約2週間で約17万パックを出荷(令和4年度)、うち業務用が約3割を占めています。**



あぐりセンター小牧での選果・出荷風景
生産者が輪番制により選別を行っています

■今年のイチゴの作柄(12月8日現在)

今年は夏場の高温や9月の定植時期まで暑かったですが、出荷スタートは昨年とあまり変わりません。出荷量は例年と比べ少ない状況ですが、章姫・紅ほっぺともに大玉が多い傾向です。

■取材対応日■

【日時】12月13日(水)午後4時30分

【集合】JA西三河 あぐりセンター小牧
(西尾市吉良町小牧梶見堂35)

※あぐりセンター小牧での出荷作業は午後4時30分から午後5時30分頃まで行う予定です。

「業務用イチゴ」は 専用トレーを使用しています！

業務用出荷の専用パックは、やわらかい素材を用いてイチゴを置く場所に穴をあけ



▲20玉ホールトレー

ることで荷傷みを避けています。

同部会ではクリスマス前の需要期の出荷に特に力を入れており、安定した出荷量と衛生面・品質面における高品質が大手製菓業者から高い評価を得ています。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄町下田15

企画室企画課 広報担当:尾形怜美

TEL:0563-56-5214 担当者携帯:070-1414-6818

HP:https://www.ja-nishimikawa.or.jp/

Eメール:kikaku@ja-nishimikawa.com



※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

西尾市のイチゴ生産

～県下でも平均反収が高く、部会員も多数所属～

■ 西尾のイチゴ生産の特徴 ■

JA西三河いちご部会では75人の生産者が高設栽培(章姫)・土耕栽培(紅ほっぺ)で年間966トンのイチゴを生産。この2品種に集約して有利販売へつなげています。

クリスマスケーキ用の需要が高まる12月上中旬に一番果のピークを迎えられるように栽培していることが特徴。8月頃にイチゴの苗に夜冷処理を施して花芽を分化させ、秋からの収穫・出荷を可能としています。農業用ICTツールの活用にも積極的で若い世代を中心に30人が導入。ハウス内の温湿度や二酸化炭素濃度を見える化し、最適なハウス環境の構築をめざしています。



「バンカーシート」とは、ハダニを捕食するダニ「ミヤコカブリダニ」を保護し、効果的に増殖するための小さな箱状の資材。ミヤコカブリダニを長い期間放飼でき、ハダニの発生を抑制します。

「バンカーシート」を設置するイチゴ農家

■ 「虫」をもって「虫」を制す 天敵利用など環境にやさしい防除を実践 ■

同部会では農薬の利用抑制とコスト低減・省力化のため、天敵を利用した防除を行っています。2015年より、イチゴの重要害虫であるハダニの発生を抑えるため、天敵資材「バンカーシート」を導入。

その他にも高濃度CO2ダニ防除機やCO2局所施用、生物農薬・リモニカスカブリダニの試験にも取り組み、生産性の向上を図っています。

■ 新規就農者向け栽培講座も開校中！ ■

JA西三河いちご産地振興委員会は2019年6月より、施設栽培イチゴの就農支援プロジェクト「いちごスクール」を開校しています。スクール受講生は西尾市内のイチゴ農家のもとで研修。現在、5期生5人がスクールを受講中です。

「いちごスクール」とは、施設イチゴ栽培での就農を目指す方を対象とする就農支援プロジェクト。栽培技術などを生産者が直接指導する実務研修から、経営研修・農地取得・補助金申請などをセットに、新規就農・Iターン就農者を専業農家まで育成します。

詳しくはJAホームページをご確認ください⇒



みんなが
大好きな
いちご。
西尾で
作りませんか？



JA西三河いちご産地振興委員会

【生産者部会情報】

名称：JA西三河いちご部会

出荷量：966トン（令和4年度実績、業務用出荷含む）

部会員数：75人 耕作面積：約17.2㌦ 流通先：愛知県・石川県・新潟県

収穫期：10月下旬～6月（最盛期は4月頃の見込みです、平年通り）

（全国の生産概況）

全国のイチゴ出荷量：152,300トン

愛知県のイチゴ出荷量：10,400トン（栃木、福岡、熊本に次ぐ4位 東海地方では1位）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）令和3年産統計表

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/attach/pdf/index-4.pdf